

2019年度 社会福祉法人光摂会 事業報告

●法人事業報告について

1、各事業所の実績について

事業所	登録者数		1日平均利用者	
	今年度	前年度	今年度	前年度
摂津交流センター バクの家	32名	32名	26.5名	25.7名
バクさんのくつろぎ	12名	12名	4.33名	5.35名
ハッピーワールド	18名	19名	16.1名	15.1名
バクのパン屋さん (バクかふえ含む)	23名	19名	15.6名	14.2名
光摂ホーム	14名	14名	12.8名	11.6名
摂津障害者生活支援センターはあねす	65名	49名		

*登録者は、2020年3月末現在。

*1日平均利用者は、2019年3月と2020年3月の1ヶ月間で比較。

2、重点方針についての振り返り

(1) 運営について

① 各事業所管理者の定期的な異動を開始

・4月1日に管理者の異動を実施した。4月から初めて管理者になった職員については、統括施設長が当該事業所の職員会議への出席を行いながら、必要に応じて助言等を行った。また、11月からは育成の一環として、新管理者の事務局会議へのオブザーバー出席も開始した。それぞれの管理者等が、管理者の異動等を通じて、役割や所属する場所が変わることで、今までとは違う視点で物事を見る機会を得ることができている。今後も、管理者等の定期的な異動を実施しながら、管理者等がより広い視野を獲得し、その中で管理者等の役割をより明確にしていけることが可能だと考えられる。

② 法人本部の強化

・4月1日から、統括施設長が法人事務員と同じ建物で勤務を開始したことで、報告・相談・連絡が今まで以上に円滑に行えた。その結果、現在の法人の状況に合った保険等の契約見直しや、資金管理方法の変更などを行うことができた。また、昨年度に引き続き、定期的に事務局会議を開催し、情報を共有することにより、早期に課題を共有し対応等を理事会に提案できるようになった。具体的には、日中プログラム開発プロジェクトチームの立ち上げ、くつろぎ活動拠点移転等を実施することができた。今後も、事務局会議を中心として、何気無い情報も含めての情報共有、課題の早期発見、早期対応、振り返りの実践を繰り返していく必要があると考えられる。

③ 夏季休暇・冬季休暇の短縮による、日中事業所の年間開所日数のさらなる確保

・今年度から、就業規則の変更により、夏季休暇・年末年始休暇を短縮した。夏季については、祝日の配置等の影響もあり、昨年と同日数の開所となった。年末年始については、昨年度と比較して3日多く開所することができた。

年間休日開所スケジュール作成を行ったのは、摂津交流センターバクの家のみであった。他の事業所に関しては、地域行事等の日程が決定した後に、休日開所日を設定する場合があります、年間スケジュールを作成するのが難しい状況もあった。ただ、事業所内で調整が可能な休日活動等についても、年間スケジュールを作成していない状況もあった。職員に早い段階で年間スケジュールを示すことで、職員一人一人の有給取得計画が作りやすく、過度な負担を職員に掛けることなく、開所日を増やしていくことが可能だと考えられる。そのためには、今後も、法人・事業所の年間のスケジュールを早い段階で職員と共有することが必要だと考えられる。

(2) 事業について

① 阪急立体交差事業に伴う「バクかふえ」移転への対応の検討

・わかば保育園・たんぼぼとは、定期的に情報交換等は行った。今年度に関しては、立体交差事業がほとんど進捗していない状況もあり、3者で具体的な対応等を行う必要がなかった。今後も、立体交差事業の進捗に合わせて、3者で対応等を行っていく必要があると考えられる。

② 地域交流室の設置

・4月の大阪しあわせネットワークへの参加から始まり、多くの地域の取り組みに参加した。また、10月からは、日中プログラム開発プロジェクトのリーダーに就任した。なお、法人内では、地域行事調整会議等を行い、事業所ごとに参加

していた地域行事を法人単位で参加する仕組みへ調整した。そのことにより、地域との繋がりを保ちながら、各事業所の負担を軽減することができた。今年一年を通じて、地域交流室の活動に広がりが見られる。今後は、地域交流室単独で、より詳細な事業報告を行っていく方向にする必要があると考えられる。

*活動詳細については、「地域交流室 活動報告」参照。

③ 「ハッピーワールド」の老朽化対応と「バクのパン屋さん」活動スペース拡大に向けた検討

・両事業所が合同で会議を行うことは無かった。しかし、各事業所の職員会議等から、事務局会議に上がってきた課題等を受けて、「日中プログラム開発プロジェクト」（喫茶アウル）が実施された。今後も、バクのパン屋さんの活動スペース・ハッピーワールドの利用者数の減少等の課題を検討していく必要があると考えられる。

(3) 人材育成

① 職員の3福祉士取得に向けた支援の実施

・補助の実施について職員に周知したが、職員からの申請は無かった。学費等の一部補助については具体的な方法を話し合うことはできなかった。なお、資格手当については、常勤職員のみが対象となっており、現状では、非常勤職員が資格取得した場合、資格手当の支給が行えない状況もある。今後は、資格取得への補助に加えて資格取得後の処遇についても検討する必要があると考えられる。

② 理念本の作成

・理念・職員さんをお願いしたいこと・法人の歴史によって構成された「理念本」を2020年2月に発行することができた。なお、「理念本」は、職員が携帯できるように、折りたたむとカードサイズ（運転免許証と同じぐらいのサイズ）になるように製本等を行った。法人研修については、サービス管理責任者会議が中心となり以下の研修を実施した。今後は、理念をさらに多くの人に共有してもらえるように、「理念本」の活用や、引き続き理念に沿った法人研修の実施が必要だと考えられる。

開催日時	内容	参加者数
2019年6月15日(土)	「精神科医との質疑応答」 講師：医療法人小憩会 さわらび診療所 院長 稲垣亮祐氏	24名
2019年7月13日(土)	「障害者虐待防止法について」 講師：特定非営利活動法人 サポートグループほわほわの会 代表理事 宮崎充弘氏	29名

2019年11月16日 (土)	「応急手当講習（AEDの使い方、心肺蘇生、人口呼吸法等）」講師：摂津市消防署	25名
2020年2月1日(土)	「利用者支援について」講師：特定非営利活動法人サポートグループほわほわの会 代表理事 宮崎充弘氏	23名

③ 外部研修実施の開始

・9月には、バクの家管理者がリープセンターひびき（自立訓練）で1日研修を行った。また、2月には、管理者等5名が滋賀県で開催されている「アメニティーフォーラム」へ参加した。いずれの研修についても、参加者が事務局会議で、研修内容等の発表を行い、管理者間での情報共有を行った。今後は、外部研修で得た知識や技術をより多くの職員で共有できる方法を検討していく必要もあると考えられる。

(4) 労働条件

① 職務内容と勤続年数がより反映された給与表の作成

・4月より、新しい俸給表による給与の支給を開始した。職員の更なる処遇改善に向けて、特定処遇改善加算の取得方法について検討を重ねたが、法人単独の支出が増加すること等を考慮して、特定処遇改善加算の取得には至らなかった。今後は、2019年度に作成した俸給表に沿って昇給できる仕組みを維持しながら、さらに役割に応じた俸給表を作成していくことも検討する必要があると考えられる。

●摂津交流センターバクの家について

1、事業の目標の振り返り

(1) 事業所外での活動を積極的に行う

・毎月、利用者の誕生月にバクかふえにて喫茶活動をおこなった。利用者からの希望もあったため来年度も喫茶活動を継続する。誕生月とせず頻度も増やして実施する予定としている。

・バクの家駐車場を使つてのバク・くつろぎ交流バーベキューを実施した。

・事業所前のランド親水施設を利用し、食事をおこなう予定にしていたが実施できていない。

2、ヒヤリ・事故・苦情の振り返り

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	37	35	46	47	45	38	
事故	3	2	4	5	1	3	
苦情	0	2	0	1	0	1	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	42	44	49	41	42	49	515
事故	2	2	1	0	1	3	27
苦情	0	0	0	0	0	1	5

(2) 内容と振り返りについて

・ヒヤリについて

行動障害やこだわり、パニック時の自傷・他傷行為の事例が多い。また、作業室内での「つまづき」が多く挙がっており、加齢などの身体的状況の変化だけでなく、環境的な要因も考えられる。障害特性による、こだわりや他者への攻撃性により、利用者とのトラブルが増加している。

・事故について

確認ミスが数件挙がっており、事業所に移動する際に利用者を置いたまま気づかないことがあった。また、行動障害のある利用者が、自身でシートベルトを外し、ドアを開け出ようとしたことがあった。職員会議の中で、人数の確認や介助者のいない送迎車では集中ロックをするなど、決めた対応の確認をおこなった

・苦情について

送迎時のクラクションや停車位置が家の前になり、迷惑になるので場所を変更してほしいなど対外的な苦情や要望があった。運転者としてのマナーや交通ルールなど意識し改善を図った。

3、工賃実績について

工賃支払い総額	1,366,562 円
平均工賃	3,277 円

*工賃支払総額：2019 年度 1 年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：2019 年度 1 年間に支払った工賃の総額÷2019 年度 1 年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●バクさんのくつろぎについて

1、事業の目標の振り返り

(1) プログラムの充実を図る

- ・バクの家でおこなっている各活動（お茶教室、お華教室、エアロビ、音楽リズムなど）の参加希望があったため、参加を促していたが参加には至らなかった。他にも提案をするも実行にうつすのは難しかった。
- ・作業の合間や帰る前にラジオ体操をおこなっている。

2、ヒヤリ・事故・苦情の振り返り

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	8	6	5	3	8	8	
事故	1	0	1	0	0	0	
苦情	0	0	1	0	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	6	7	6	5	3	2	67
事故	0	1	0	0	0	0	3
苦情	0	0	0	0	0	0	1

(2) 内容と振り返りについて

・ヒヤリについて

健康・加齢に基づくものや行動障害、利用者間のトラブルが多くを占めた。
また、持病の悪化や認知障害などに関わる健康面や服薬に関して、利用者自身が管理をする中で忘れそうになる事例が見られた。

・事故について

利用者が過呼吸を訴え緊急搬送される。緊急搬送の可能性の高い利用者の対応策として緊急搬送の手順等を確認していたため、対応は比較的スムーズにおこなえた。
件数としては挙げられていないものもあるので今後は、こういったものが事故にあたるかなど認識することから始める必要がある。

・苦情について

すべて件数に挙げられていないが、他利用者に対してや職員に対してなどの苦情・要望等もあった。利用者の話を聞き、職員間で内容の共有や対応をおこなった。

3、工賃実績について

工賃支払い総額	614,023 円
平均工賃	5,340 円

*工賃支払総額：2019年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：2019年度1年間に支払った工賃の総額÷2019年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●ハッピーワールドについて

1、事業の目標の振り返り

(1) 事業所内でおこなう作業の拡充

・新しい内職作業の受注を行ったことにより、内職作業の幅が広がり、今まで携わるのが難しかった利用者も内職作業に携わる機会が持てた。なお、今年度は、この間の製造や販売の状況などを考えた結果、長年続けてきた「ハッピーのカレンダー」の製造販売を中止し、カレンダー販売終了に伴う「原画展」を喫茶アウルで行った。今年度は実現しなかったが、今後は、カレンダーに代わる新たな自主製品を開発する必要があると考えられる。

(2) 作業スペースの拡大

・4月から2階の事務所スペースの一部を作業スペースとして利用を始めた。また、10月からは、喫茶アウルでの作業（週3回（火・水・木曜日））を始めた。事業所内や事業所外に活動スペースを増やすことで、利用者の希望に添った形での作業環境を提供することが可能となった。今年度は、個別支援計画作成の過程で、より利用者の希望を聞くことに努めた。利用者への聞き取りの中で、事業所を「職場でもあり、生活に必要な場所」と考えている方も多く居ることに改めて気づくことができた。今後は、「職場でもあり、生活に必要な場所」の視点を大切にしながら、さらに利用者の希望に添った形で活動できる場所の提供を行っていく必要があると考えられる。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	0	3	12	6	1	2	
事故	1	8	5	10	7	6	
苦情	0	0	0	4	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	3	8	9	7	4	9	64
事故	13	9	5	8	4	6	82
苦情	0	1	0	0	0	0	5

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

・利用者同士や設備物等へ衝突しそうになるケースが多く、動線や利用者の障害特性が原因として考えられる事例が挙がっている。また、10月よりアウルでの活動

場所が新しく増え、今までになかった作業（野菜切り等）をする中で起こる事例（けがをしそうになるや衛生面等）が多かった。

② 事故について

・ヒヤリハット同様、利用者同士や設備等への衝突によるケースがある。その都度職員間で共有をおこなう中で、備品等の置き場所の変更など解決策を行った。また、障害特性の行動によるケース（利用者を押す等）も多い。利用者同士の距離を置く（他の利用者に離れた場所に行ってもらう）などの対応をおこなった。

③ 苦情について

・家族等からの問い合わせに関して件数として挙げている。その都度、謝罪や今後の対応について丁寧な話し合いを心掛けた。問い合わせの中には、利用者の想いに添って行った対応が、家族との想いと違う結果になったことでの問い合わせもあり、その場合は、ご家族に対応の経過（本人さんの想い、対応内容等）の丁寧な説明を行った。件数に挙げていないケースとして、利用者からの要望等が多くある。その都度、利用者の話を聞き、職員間での共有をおこなった。

3、工賃について

工賃支払総額	2,919,160 円
平均工賃	13,784 円

*工賃支払総額：2019 年度 1 年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：2019 年度 1 年間に支払った工賃の総額÷2019 年度 1 年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●バクのパン屋さん・バクかふえについて

1、事業の目標の振り返り

(1) パンやクッキーの年間売り上げについて

収入について、4,021,456円となり、前年度よりも約17万円ほど落ち込む結果となった。原因としては、毎週定期的に納品をしていた場所が無くなったり、臨時的なイベントでの収入が無くなった事が主だと考えられる。年間の売り上げをアップするため、既存の販売場所の見直し等をおこない、出張販売に加えて受注納品を依頼したり、淀川産地直送センター様に協力を依頼し、注文の企画を月に1週から2週に増やしてもらった。また、クッキー等の焼き菓子の製造、販売にも力を入れてきたが、大きな収入増には繋がらなかった。今後は、売り上げの増加に向けて新たな取り組みが必要になる。

利用者の工賃を見ると、前年度の平均時給よりも5円アップし、今年度の平均時給は83円となっている。そのため、利用者へ支払った工賃の総額については、利用者の増加も影響し、約21万円ほど増えている。今後、利用者の工賃を下げないように時給を一定の水準に保つためにも、売り上げの増加は必須になってくる。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	14	20	29	16	11	6	
事故	9	12	7	4	2	5	
苦情	1	1	0	2	0	0	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	33	25	19	18	13	18	222
事故	12	15	8	3	4	7	88
苦情	3	3	1	3	0	2	16

(2) 内容と振り返りについて

①ヒヤリハットについて

全体の傾向としては、作業に関するもの、利用者の障害特性に関するもの、利用者や職員とのやり取りに関するものが多く挙がっている。

10月より、他事業所で取り組んでいる「気づきノート」を、パン屋・かふえでそれぞれ取り組みを開始。常勤・非常勤の職員全員に記録をお願いしている。それにより、日々の利用者の様子について、今まで以上に記録、共有が出来るようになったと思う。また、パン屋とかふえの気づきノートについては、それぞれコピーを取り、各事業所へ残しているため、お互いの事業所の状況についても、気づきノートを見ることであ

る程度把握が出来る状況を作っている。

②事故について

作業中に起こっているものが多く、職員の見守りや声掛けが不十分な為、起こっているものもある。パン屋。かふえ共に利用者が増えてきており、日々活動をする中で物理的な接触や、調理器具による怪我、利用者同士のトラブルもそれに併せて増えてきている現状がある。

利用者一人ひとりの障害特性や身体状況が違うため、利用者に合わせて個別の対応が必要な事もあれば、仕組みそのものを変えていくことが必要な事もあった。

③苦情について

商品に関する事や、利用者からの問い合わせについても件数として記録している。その場で対応が出来るような事案もあったが、利用者からの声により、仕組みを変えるきっかけになったものもあるため、今後も利用者からの声の拾い上げは重要なものとなって来る。

3、工賃について

工賃支払総額	1,462,378 円
平均工賃	6,144 円

*工賃支払総額：2019年度1年間に利用者さんに支払った工賃の総額

*平均工賃：2019年度1年間に支払った工賃の総額÷2019年度1年間に工賃を支払った利用者さんの延べ人数

●光摂ホームについて

1、事業の目標の振り返り

(1) バックアップ体制の強化

・4月より、ハッピーワールド2階の一部に事務所機能を移転した。管理者・サービス管理責任者・バックアップ施設職員が、同じ事務所内で業務を行うことで、情報共有がより円滑に行えるようになった。また、月に1回程度、業務の進捗状況等の確認を行う会議を開催した。会議終了後できるだけ早く記録を作成することで、見える形で確認内容や進捗状況を確認できるようにした。このような取り組みを実施する中で、計画・実行・振り返り・改善のサイクルが向上していると考えられる。今後も、一人一人の役割は明確にしながらも、チームで支え合う機能を高めていく必要があると考えられる。

(2) 建物の老朽化による、施設の修繕を計画的に考えます。

・光摂ホームは、民間の賃貸物件2軒と府営住宅2軒の4カ所で運営を行っている。府営住宅に関しては、建物の管理全般を大阪府で行っているため、修繕等について一定の基準が定められており、基準に沿って修繕が実施される。しかし、民間の物件に関しては、貸主によって考え方も異なることから、修繕についての一定の基準が存在しない状況がある。そのような状況の中、今年度は、貸主に建物の些細な変化も含めて相談することに努めてきた。その結果、貸主による床の修繕等が行われた。今後も、貸主への個別相談を継続して、貸主に協力を頂きながら施設の維持を行っていく必要があると考えられる。

(3) 業務の見直しを計り業務の効率化を計ります。

・事務所の職員について、「職員業務一覧」を作成し、一人一人の役割を明確にした。その結果、「目に見えない業務」（利用者さんの金銭管理に関する事務、予定調整に関する事務、食事に関する事務、日用品購入に関する事務等）が多くを占めていることが改めて明らかになった。また、利用者さんの定期通院等の対応も年々増えている状況が明らかとなった。今年度は、業務内容を把握するまでとなった。今後は、業務の効率化をどのように進めていくのかを検討していく必要があると考えられる。

2、ヒヤリ・事故・苦情について

(1) 一年間の件数について

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
ヒヤリ	1	7	10	6	3	6	
事故	9	9	9	5	5	8	
苦情	0	0	1	0	2	1	
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ヒヤリ	11	3	10	8	3	8	76
事故	8	7	8	11	5	11	95
苦情	0	0	0	1	0	0	5

(2) 内容と振り返りについて

① ヒヤリハットについて

・今年度は、他害行為(大声を出す、物を投げようとする、睨みつける等)が多く。その次が服薬に関するもの(一包化されている薬の日付を間違えて服薬、薬カレンダーへのセッティングを間違える等)であった。

② 事故について

・今年度は、他害行為(世話人・利用者を叩く、物を投げる、物を叩く等)が一番多く占め、その次に服薬に関する事故(飲み忘れ、薬カレンダーへのセッティング忘れ等)であった。職員会議の中で、他害行為だけに着目するのではなく他害行為に至るまでの経過等についても共有を行った。また、事業所内だけでなく、日中事業所や相談支援事業所と他害行為を行う利用者の理解を深める会議等を行った。服薬に関しては、職員会議で、服薬支援のマニュアル(特に飲み忘れ時の対応)について再確認を行った。

③ 苦情について

・苦情に関しては、利用者からは職員の対応に関する苦情が多く、職員会議等で利用者理解を深めることを行った。設備等が原因であった事例については、設備等の修繕を行った。家族からの苦情に関しては、職員の支援に対する苦情が上がっており、職員会議等で、利用者個別の支援方法について確認等を行った。

3、通院介助の状況について(光摂ホームのみ)

通院先	30代	40代	50代	60代	70代	小計
精神科	1	23	12	13	0	49
内科	26	49	16	12	11	114
外科	0	5	1	0	0	6
整形外科	0	0	12	0	0	12
皮膚科	18	0	6	0	0	24
婦人科	4	1	12	0	0	17
眼科	2	0	0	0	0	2
肛門科	2	0	0	0	0	2
歯科	0	27	16	12	0	55
合計	53 (17.6)	105(17.5)	75 (25.0)	37 (37.0)	11 (11.0)	281(20.0)

* 30代：女性2名 男性1名 40代：女性4名 男性2名 50代：女性3名
60代：女性1名 70代：女性1名

* ()内は各年代での平均通院件数

●摂津障害者生活支援センターはあねす

○障害者相談支援事業（摂津市委託事業）

相談者数

	実人員	身体障害	重症心身	知的	精神	発達障害	高次脳	その他
障害者	82	58	0	24	5	0	2	4
障害児	0	0	0	0	0	0	0	0
計	82	58	0	24	5	0	2	4

(実人員<障害種別合計数)

支援内容（件数）

訪問	来所	同行	電話	メール	個別支援 会議	関係機関	その他	計
154	88	36	276	17	23	497	67	1158



居宅事業所	日中事業所	行政機関
114	81	80
23%	16%	16%

支援内容（件数）

福祉サービス	障害-病状理 解	健康・医療	不安の解消	保育・教育	人間関係
323	3	200	183	40	44
家計・経済	生活技術	就労	社会参加-余 暇	権利擁護	その他
67	197	5	17	18	61
					計 1158

○指定特定相談支援（計画相談支援（摂津市指定）

計画相談対象者：69名

サービス等利用計画作成件数：70件 継続サービス利用支援件数：172件

個別支援会議の実施状況

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
13	8	8	12	8	15	11	12	11	11	4	8	121

○一般相談支援（地域相談支援（大阪府指定））

地域移行支援：0件　地域定着支援：0件

○障害当事者交流会「とにかくいっぺん集ってみよう会」実施報告

実施回数：10回（創作活動8回、調理活動（たこ焼き）1回、社会見学（通天閣・動物園）1回）

作品展：12月14日（日）コミュニティープラザにて開催

2. 事業の目標の振り返り

- ・相談支援の機能と役割は、相談者自らが望む暮らしを選択し、希望を実現していく過程を見守り支えることである。そのことを常に念頭に置き、問題解決型の相談支援に陥らないよう、相談者のニーズを的確に把握し、自己選択を尊重することで、障害者の権利を守る。

→利用者のニーズを把握するため、初期面談、アセスメント、定期面談等、時間をかけて丁寧に行ってきた。しかしながら、言葉として表れにくい利用者の本音を引き出すことができなかったケースもある。支援する中で潜在的なニーズや気持ちの変化に気づき、支援方針を一から見直すことができたケースもあれば、利用者信頼関係を築く前にサービス提供が終了となってしまったケースもある。今後の対応としては、これまでの基本姿勢は変えぬまま、相談支援専門員個々の対人援助のスキルアップを目指していきたい。

- ・多機関連携によるチームアプローチをさらに浸透させ、支援体制を強化する。近年の傾向である介護保険サービスとの併用利用者の増加、医療依存度の高い在宅障害者の増加、権利擁護の認知度向上などを踏まえ、介護支援専門員や医療従事者、司法専門職などより密な協力関係を築いていく。

→利用者個々への支援を通じて、多くの関係機関と連携しながら支援していくことができた。日常的に連携する機会が多いのは、居宅介護事業所や日中活動事業所等の障害福祉サービス提供事業者だが、介護保険のケアマネージャーや病院や訪問看護等の医療機関と連携するケースも多かった。また今年度においては、行政機関との連携ケースが多かった。2019年度から摂津市障害福祉課が身体障害専門のケースワーカーを配置したことから、支援導入時からワーカーと協力体制を取ることができた。また生活支援課の福祉サービス等担当職員、家庭児童相談課のワーカー、スクールソーシャルワーカー、保健福祉課の保健師等、課を跨いだ連携体制が取れた。

- ・ 摂津市内に 3 箇所ある相談支援事業所（者に限定）のひとつとして、役割を果たす。相談支援専門員の 3 名体制を維持し、昨年度以上に多くのケースに対応する。また、障害支援区分認定調査（摂津市委託）も担っていく。相談ケースの増加によって支援の質が低下しないよう、定期的なケース会議で支援状況を全体で把握し、必要に応じてフォローし合える体制を確立する。また、相談支援専門員のスキル向上を目指し、積極的に外部研修に参加する。摂津市障害者地域自立支援協議会の構成員として、相談支援部会や各種ワーキングの中で、地域課題の抽出や社会資源の開発に取り組んでいく。

→2018 年度の相談支援体制 1 名体制から 3 名体制と充実した職員配置を行うことができた。しかし 1 名は他事業所との兼務であったことから、相談支援業務に安定的に従事するには至らなかった。2020 年度は、より安定した職員体制の維持に努めることを目標としている。今年度の新規契約者は 20 名だった。相談件数はここ数年の間、着実に伸びている。摂津市障害支援区分認定調査も今年度から受託し、今年度の調査実績は 27 件だった。職員会議を月 1～2 回程度開催し、全体でケースの進捗状況を共有している。今年度から、統括管理者が職員会議に出席、それによって法人に相談支援の業務内容や利用者を知ってもらう機会ができた。月 1 回開催される相談支援部会には相談支援専門員 3 名が毎回出席することができた。活動報告から地域課題が抽出され、ワーキングや研修につながったケースもある。自立支援協議会や相談支援部会主催の勉強会にも出席している。

●地域交流室活動報告について

活動日	活動内容
4月4日(木)	摂津市人権協会会議
4月5日(金)	ひこうせん編集会議
4月8日(月)	仲川氏との打ち合わせ
4月17日(水)	大阪府社会福祉協議会セルフ部会
4月23日(火)	摂津市福祉就職フェア会議
4月24日(水)	福祉まつり実行委員会
4月25日(木)	C S W養成研修① 地域福祉研究会
5月7日(火)	摂津市人権協会定例総会
5月10日(金)	C S W養成研修②
5月15日(水)	生きる会役員会
5月16日(木)	Y O C A Y O C A 集まり
5月18日(土)	C S W養成研修③
5月25日(土)	一中校区子ども食堂
5月27日(月)	摂津市福祉就職フェア会議
5月31日(金)	わたバ会
6月2日(日)	第24回摂津市民福祉まつり開催
6月7日(金)	ひこうせん編集会議
6月18日(火)	摂津市人権協会常任委員会 たそがれコンサート会議
6月19日(水)	大阪府社会福祉協議会セルフ部会
6月21日(金)	わたバ会
6月22日(土)	一中校区子ども食堂
6月24日(月)	摂津市福祉就職フェア会議
6月26日(水)	福祉まつり実行委員会
7月7日(日)	摂津市福祉就職フェア
7月10日(水)	Y O C A Y O C A 集まり
7月12日(金)	摂津支援学校保護者向け施設案内
7月18日(木)	ひこうせん編集会議
7月26日(金)	白鷺園納涼会
7月27日(土)	J O C A 大阪一周年祭 一中校区子ども食堂
7月30日(火)	わたバ会

8月6日(火)	たそがれコンサート会議
8月18日(日)	味舌小地区飯盒炊飯
8月27日(火)	ろうそくファンタジー会議
8月31日(土)	たそがれコンサート
9月2日(月)	日中プログラム開発プロジェクト会議
9月4日(水)	生きる会役員会
9月6日(金)	摂津市人権協会常任委員会
9月11日(水)	ひこうせん編集会議
9月12日(木)	支える後援会定例会
9月17日(火)	わたバ会 日中プログラム開発プロジェクト会議
9月18日(水)	休日行事日程調整会議
9月26日(木)	防火管理者研修 地域福祉研究会
9月27日(金)	防火管理者研修
9月28日(土)	一中校区子ども食堂
10月1日(火)	喫茶アウル 消防打ち合わせ
10月2日(水)	喫茶アウル 開店準備
10月3日(木)	喫茶アウル 開店準備
10月8日(火)	日中プログラム開発プロジェクト会議
10月9日(水)	障害者週間運営会議
10月11日(金)	ひこうせん編集会議
10月16日(水)	喫茶アウル 試食会
10月17日(木)	喫茶アウル 試食会
10月18日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
10月20日(日)	摂津小学校区地区体育祭
10月23日(水)	生きる会役員会
10月26日(土)	味舌小カーニバル準備 一中校区子ども食堂
10月27日(日)	味舌小カーニバル
11月1日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
11月13日(水)	障害者週間運営会議 生きる会役員会
11月14日(木)	摂津市人権協会常任委員会
11月22日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
11月29日(金)	ひこうせん編集会議

12月8日(日)	風船バレーボール大会
12月16日(月)	苦情解決第三者委員会
12月18日(水)	大阪府社会福祉協議会セルフ部会
12月20日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
12月21日(土)	一中校区子ども食堂
12月22日(日)	ふれあいの集い
12月23日(月)	デイハウス味舌大掃除
12月26日(木)	支える会後援会定例会
1月14日(火)	わたバ会
1月19日(日)	一中校区クリーン作戦
1月23日(木)	三島ふれあい広場花壇管理についての打ち合わせ
1月24日(金)	日中プログラム開発プロジェクト会議
1月25日(土)	一中校区子ども食堂
1月30日(木)	居住支援勉強会
2月18日(火)	味舌の楽しいち会議
2月19日(水)	大阪府社会福祉協議会セルフ部会
2月25日(火)	わたバ会
3月6日(金)	ひこうせん編集会議 日中プログラム開発プロジェクト会議
3月15日(日)	摂津小学校区緑化部会会議
3月24日(火)	わたバ会